

市長の窓

しげ のぶ
滋宣の

ぼう ちゅう かん あん ちゅう めい

“忙中閑あり暗中明あり”

その 14

～ 村雨～

急にひとしきり降ってはやみ、また思い出したように激しく降ってくる雨のことです。

群れになって降る感じがするので、「群雨」「叢雨」とも書きます。

雨の降り方は少し違うかもしれません、最近よく話題となる「ゲリラ豪雨」という表現から見れば、なんと"味わいの深い"言葉遣いでしょう。

先人たちの表現力と感受性に感服します。

「村雨」「にわか雨」「通り雨」は、季節に関係なく使える言葉ですが、特に季節感を出したい時には、「夏の村雨」「秋の村雨」「村雨時雨(冬)」などという言い方をします。

美しい語感の言葉で、村雨がさーっと通り過ぎた後の、露もまだ乾かずに煙ったような風情は格別。一幅の墨絵のようで、日本人は昔からこうした"余韻のある"風景を好んできました。

能代市長 齊藤 滋宣

8月6日、役七夕を
市役所前で出迎え

